ふくばるちょうじゃばる

福原長者原遺跡現地説明会

―　福原長者原遺跡南門跡　―

人が立っている場所が柱の位置。

門の柱は中央の 12 本、両側の柱は回廊状遺構。

2012 年 6 月 10 日（日）13:00～

九州歴史資料館文化財調査室

1.調査概要

遺 跡 名：福原長者原遺跡（ふくばるちょうじゃばるいせき）
所 在 地：行橋市南泉 2 丁目（旧大字福原）
調査原因：東九州自動車道建設
調査主体：平成 22 年度　　福岡県教育庁総務部文化財保護課
　　平成 23 年度～　九州歴史資料館
調査期間：平成 22 年 7 月 27 日～
面　　積：官衙域約 7,750 ㎡（6,600 ㎡終了、1,175 ㎡調査中）

2.福原長者原遺跡とは

福原長者原遺跡のある場所は、長者原という地名であり、また、方形の地割りが残っていることなどから、古代の役所跡があると考えられてきました。平成 8～9 年の県道長尾・稗田・平島線の拡幅工事に伴う発掘調査では、この方形の地割りに沿って幅約３ｍの溝（奈良時代）が発見されました。この成果から、この地に古代の役所跡が存在する可能性が強まりました。

そして、平成 22 年度から東九州自動車道の建設に伴う発掘調査で、役所の一部とみられる建物跡や、役所の周りを取り囲む回廊状遺構や大溝などの遺構、硯、食器、瓦の破片、そして金属の鋳造時にでる鉱滓などの遺物が発見されました。

今回、東九州自動車道に係る調査としては最後の部分になりますが、役所の南側の区画施設である回廊状遺構と大溝、そして回廊状遺構に取り付く南門跡（八脚門）が検出されました。当時、南門は役所の正門であり、権威を示すのに重要視されました。

現在のところ、役所の性格を決定付ける遺物は発見されませんでしたが、奈良時代前半を中心とした時期の役所であること、東西の規模が最大で約 150m に及ぶこと、門の形式が八脚門であることなど、当時の役所としては九州でも最大級の規模を誇る重要な役所であったことが判明しました。

【用語説明（出典④）】
国衙（が）：国の行政執行機関及び周辺の実務的官衙の総称。
国庁：国衙の中枢施設。
国府：国衙や関係施設の従事者の宿所、市、民家などが営まれた地区。
郡衙：郡を統治する役所。
郡庁：郡衙の中枢施設。

遺跡位置図 1／15000（行橋市教育委員会 2010『行橋市内遺跡等分布地図』とみやこ町教育委員会 2010『みやこ町内遺跡等分布地図』の合成）

全体遺構配置図（1／1000）

3.遺構

掘立柱建物：

	掘立柱建物１	掘立柱建物２	掘立柱建物３
桁行	6 間	6 間（以上か）	6 間
梁行	2 間	2 間	2 間
柱間寸法	約 1.95～2.15m	約 2.40m	約 1.80～2.20m
柱間寸法	約 2.40～2.50m	約 2.45m	約 2.45m
妻	約 5m	約 5m	約 5m
平	約 12m	約 17m（以上か）	約 12m
柱穴形状	方形	方形	長方形
柱穴規模	約 1m 四方、 深さ約 1m	約 1m 四方、 深さ約 0.7m	約 1.8m×約 0.9m、 深さ約 1.2m
柱直径	約 0.3m	約 0.3m	約 0.3～0.6m
特徴	妻中央柱穴に礎盤石	北に延びる可能性あり	一部礎盤石あり

回廊状遺構：調査区西側・東側・南側で 2 列の並行する柱穴列が検出されました。屋根つきの廊下のような施設が想定されます。西側は 11 間分、南側は南西隅から門までが 23 間分、南門から東側は 6 間分、東側は 20 間分確認されました。柱穴の形は方形を基本としますが、内側はやや不整形です。柱穴の規模は外側が約 0.8m 四方、内側は外側に比べて小振りです。柱間寸法は桁が約 2.1～2.7m、梁が約 1.6m～2.05m、柱直径は約 0.2m です。東側の柱穴列は次に述べる大溝１を埋めた後に構築されていました。

大溝：調査区東側で南北方向の大溝 1、2 を確認しました。1 は幅約 3m、断面は逆台形、底面直上に薄い砂質土層が堆積していましたが、その上は地盤を砕いたような土で短期間に埋められていました。2 は幅約 4.5m、断面逆台形、堆積状況から長い期間をかけて自然に埋まっていったと考えられます。また、調査区西端で大溝 1 と埋まり方がよく似た大溝を確認しました。一方、調査区南端では、大溝 2 と埋まり方がよく似た東西方向に延びる大溝を確認しました。

溝：東面及び南面の回廊状遺構の外側約 1m の位置に回廊状遺構と平行する溝が確認されました。この溝は門跡の手前で止まっており、門を意識して作られたことがわかります。

東門？：東面回廊状遺構の一部で外側に 1 間分張り出すように柱穴が確認されました。全て検出されたわけではありませんが、東門の可能性が考えられます。

南門：南面回廊状遺構から外側に１間分張り出す形で、桁行 3 間、梁行 2 間の八脚門が検出されました。柱穴規模は約 1m 四方の方形を基本としますが、長方形のものもあります。柱の直径は約 0.4m、柱間寸法は桁の中央が約 3.9m、両側が約 2.4m、梁が約 2.4m～2.6m です。

鋳造遺構：掘立柱建物３の東側で楕円形の土坑 2 基と方形の土坑１基が確認され、炭化物、鉱滓（主に鉄）などが出土しました。

大型土坑：一辺約 1.8m 四方、深さは約 2.6m の井戸と考えられます。壁はほぼ垂直で、上部が地盤を砕いたような土で短期間に埋められており、下部は水分を含む砂層が堆積していました。この層から加工された木材が出土した他、底面中央に土師器の小甕がすえられた状態で出土しました。

他：掘立柱建物２が廃絶した後に掘られた柱穴が確認されました。他の掘立柱建物と同規模のもので、建物の一部と考えられますが、大部分は調査区外北側へ延びています。

4.遺物

出土量は、コンテナ 16 箱で、8 世紀前半を中心とした時期のものです。須恵器（坏身・蓋、円面硯、壺、甕等）土師器（皿、甕、甑等）、瓦、鞴（ふいご）の羽口や鉱滓（鉄・銅・鉛？）等がありました。また、掘立柱建物 1 の柱痕跡や掘立柱建物２の掘方からは、8 世紀代前半と考えられる須恵器坏（転用硯）が出土しました。

5.成果

①福原長者原遺跡は８世紀前半を中心とした時期の政庁（中心施設）。

②遺構の変遷は少なくとも 2 時期あり、区画施設は、Ⅰ期が大溝、Ⅱ期が大溝と回廊状遺構。

③役所の東西幅が判明。Ⅰ期は約 128m。Ⅱ期は回廊状遺構で約 121m、大溝で約 150m（九州最大級）。

④3 棟の掘立柱建物は政庁脇殿と考えられ、Ⅰ期が建物 2、Ⅱ期は建物 1・3。Ⅱ期の脇殿の間隔は約 77.5m。

6.課題

①南北幅（Ⅰ期は南限、Ⅱ期は北限）が不明。

②中心施設の中でも最重要施設「正殿」の規模・構造が不明。

③役所周辺の状況、特に関連施設の状況が不明。

④役所に至る道の存在が不明。

⑤みやこ町にある国府跡との関係が不明。

⑥役所の性格が不明。郡庁、国庁、それ以外かも？！

門の柱間寸法（単位はメートル）

回廊状遺構及び大溝の位置関係図（S=1/1000）

法隆寺東大門（奈良時代の現存八脚門　出典①）

柱痕跡と抜き取りの模式図（出典②）

柱の建て方想像図（出典②）

出典③

福原長者原遺跡Ⅱ期（S=1／3000）

図1　国庁の諸例　　S=1／3000　（出典④）

上野国新田郡庁の復元
（『上野国交替実録帳』による）
①岡遺跡（近江国栗太郡衙）Ⅲ－1期
②泉廃寺（陸奥国行方郡衙）Ⅰ期
③泉廃寺（陸奥国行方郡衙）Ⅱa期
④鳥戸東遺跡（上総国武射郡衙）前期
⑤小郡官衙遺跡（筑後国御原郡衙）Ⅱ期
⑥御殿前遺跡（武蔵国豊島郡衙）Ⅰb期
⑦戸島遺跡（因幡国気多評衙支所か）
⑧名生館官衙遺跡（陸奥国玉造郡衙）
小館地区
⑨神野向遺跡（常陸国鹿島郡衙）Ⅱ期
⑩神野向遺跡（常陸国鹿島郡衙）Ⅲ期
⑪御殿前遺跡（武蔵国豊島郡衙）Ⅴ期
⑫上神主・茂原官衙遺跡
（下野国河内郡衙）Ⅱ期
⑬下寺尾西方A遺跡
（相模国高座郡衙）前期
⑭万代寺遺跡（因幡国八上郡衙）Ⅱ期

⑮神野向遺跡（常陸国鹿島郡衙）Ⅰ期
⑯岡遺跡（近江国栗太郡衙）Ⅲ－2期
⑰下本谷遺跡（備後国三次郡衙）Ⅱ期
⑱有田遺跡（筑後国早良郡衙）
⑲根岸遺跡（陸奥国磐城郡衙）Ⅱ期
⑳山宮阿弥陀森遺跡（因幡国気多郡衙）
㉑久米官衙遺跡（伊予国久米郡衙）Ⅰ期
㉒長者原遺跡（武蔵国都筑郡衙）b期
㉓御殿前遺跡（武蔵国豊島郡衙）Ⅳ期
㉔今小路西遺跡（相模国鎌倉郡衙）Ⅰ期
㉕下本谷遺跡（備後国三次郡衙）Ⅳ期
㉖宮尾遺跡（美作国久米郡衙）Ⅰ期
㉗万代寺遺跡（因幡国八上郡衙）Ⅰ期
㉘古志本郷遺跡（出雲国神門郡衙）Ⅰ期
㉙久米官衙遺跡（伊予国久米郡衙）Ⅱ期
㉚東山官衙遺跡（陸奥国賀美郡衙）Ⅲ期
㉛東山官衙遺跡（陸奥国賀美郡衙）Ⅳ期
㉜根岸遺跡（陸奥国磐城郡衙）Ⅲ期
㉝弥勒寺東遺跡（美濃国武義郡衙）
㉞名生館官衙遺跡（陸奥国玉造郡衙）城内地区
㉟泉廃寺（陸奥国行方郡衙）Ⅲ期
㊱上神主・茂原官衙遺跡（下野国河内郡衙）Ⅰ期
㊲大ノ瀬官衙遺跡（豊前国上毛郡衙）
㊳今小路西遺跡（相模国鎌倉郡衙）Ⅱ期
㊴東山官衙遺跡（陸奥国賀美郡衙）Ⅴ期
㊵三十三間堂遺跡（陸奥国亘理郡衙）
㊶泉廃寺（陸奥国行方郡衙）Ⅳ期
㊷東山官衙遺跡（陸奥国賀美郡衙）Ⅱ期
㊸古郡遺跡（常陸国新治郡衙）
㊹長者原遺跡（武蔵国都筑郡衙）a期

郡庁の諸例　S=1／3000（出典④）

古代官衙における八脚門の例（奈良文化財研究所 HP 古代地方官衙関係データベースを利用して作成）

	遺跡名	遺構番号	桁行総長	梁行総長	基部構造
1	藤原宮	SB9800	15.30	10.20	礎石
2	大宰府（政庁・官衙地区）	SB005A	13.50	7.20	礎石
3	大宰府（政庁・官衙地区）	SB005B	13.50	7.20	礎石
4	大宰府（政庁・官衙地区）	SB005A	13.50	7.20	礎石
5	大宰府（政庁・官衙地区）	SB005B	13.50	7.20	礎石
6	鬼ノ城	南門跡	12.30	7.80	掘立
7	鬼ノ城	西門跡	12.00	8.30	掘立
8	正道	SB6902	12.00	6.80	掘立
9	長岡宮	大極殿院北門	11.70	6.00	礎石
10	ヘボノ木	SB2052	10.80	4.40	掘立
11	ヘボノ木	SB2052	10.80	4.40	掘立
12	難波宮	SB4	10.52	4.70	掘立
13	平城宮	SB14550b	10.10	4.20	礎石
14	近江国衙	中門	9.90	4.80	礎石
15	平城京	SB50	9.74	4.72	掘立
16	肥前国府	SB367	9.73	5.31	礎石
17	肥前国府	SB367	9.73	5.31	礎石
18	長岡京左京二条二坊十町	SB26502	9.60	5.40	掘立
19	久米官衙遺跡群	KH19-SB4	9.12	6.38	掘立
20	五条野内垣内	門	9.00	5.40	掘立
21	近江国衙	南門	9.00	6.00	礎石
22	平城宮	SB15434	9.00	4.80	礎石
23	斎宮	SB6850	8.80	4.20	掘立
24	平城宮	SB14300	8.70	5.40	掘立
25	離宮院	SB5	8.70	4.80	掘立
26	落地飯坂	SB800	8.40	4.20	礎石
27	出雲国府	9号建物	8.25	5.40	掘立
28	平城宮	SB16701	8.10	4.80	礎石
29	藤原京	SB4950	8.00	5.00	掘立
30	平城宮	SB13730B	7.98	4.14	礎石
31	鴻臚館	SB300	7.80	5.30	掘立
32	鴻臚館	SB300	7.80	5.30	掘立
33	岡	SB-02	7.80	4.80	掘立
34	肥前国府	SB780（古）	7.20	4.40	掘立
35	恭仁宮	SB9200	7.20	4.20	礎石
36	筑後国府	191SB1a	6.60	5.10	掘立
37	筑後国府	191SB1b	6.60	5.10	掘立
38	筑後国府	191SB1c	6.60	5.10	掘立
39	筑後国府	191SB1a	6.60	5.10	掘立
40	筑後国府	191SB1b	6.60	5.10	掘立
41	筑後国府	191SB1c	6.60	5.10	掘立
42	久留倍	SB434	6.60	4.20	掘立
43	正道	SB7717	6.30	4.50	掘立
44	伯耆国府	SB30	6.30	4.20	掘立
45	青野南	SB8111	6.15	5.00	掘立
46	宮尾	門址	6.15	3.25	掘立
47	肥前国府	SB780（新）	5.90	4.15	掘立
48	ハガ	4	5.80	3.25	掘立
49	波多江	SB009	5.50	2.88	掘立
50	波多江	SB009	5.50	2.88	掘立
51	平城京	SB4625	5.40	3.60	掘立
52	落地	SB006	5.05	4.00	掘立
53	難波宮下層	SB1685	4.80	3.60	掘立
54	肥前国府	SB526	4.70	3.54	掘立
55	肥前国府	SB526	4.70	3.54	掘立
56	筑後国府	SB110	4.50	3.80	掘立
57	筑後国府	SB110	4.50	3.80	掘立
58	弘川	門跡	4.50	3.14	掘立
59	肥前国府	SB535	4.13	3.54	掘立
60	肥前国府	SB535	4.13	3.54	掘立

【出典一覧】

① 岡田英男編『日本の美術　No.212 門』

② 宮本長二郎『日本人はどのように建造物を造ってきたか 7　平城京』

③ 奈良文化財研究所『古代の官衙遺跡』Ⅰ遺構編

④ 奈良文化財研究所『古代の官衙遺跡』Ⅱ遺物・遺跡編

遠景（東→西）

建物群と西側回廊状遺構

建物 1 と西側回廊状遺構

建物 2

建物 1 南中央柱穴

建物 2 柱穴断面

建物 3

建物 3 柱穴断面

大型土坑

大型土坑

東門か

東側回廊状遺構と東側大溝 1・2

西側大溝 1

県道調査時西側大溝（左 2、右 1）

県道調査時北側大溝 1（左が北）

県道調査時北側大溝 1（右が北）